

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

1 日 時	平成30年8月27日(月) 10時00分～12時00分
2 場 所	教育委員会室
3 議 題	(1) 第2回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について (2) 各施策についての点検・評価
4 資 料	次第、座席表、出席者名簿、第2回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について、点検評価委員会審査日程、平成30年度教育委員会の点検・評価報告書(案)、平成29年度教育行政方針
5 出 席 者	細渕富夫委員長、朝日洋子委員、青羽章仁委員 (関係所管出席者) 澤田教職員人事課長、吉田指導1課長、竹谷指導2課係長、吉野高校教育課長、山本健康教育課長、柳田生涯学習振興課長、樋爪人権教育推進室長 (事務局) 野津教育政策室長、竹内教育政策室長補佐、瀧山教育政策室主幹、西川教育政策室主査
6 欠 席 者	0人
7 議 事	<p>※会議を非公開とはしないことを決定した。傍聴者なし。</p> <p>議題(1) 第2回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について 事務局から、第2回さいたま市教育行政点検評価委員会の結果について説明後、各委員へ内容等に誤りがないか確認を求めた。 ※意見なし 事務局の原案のとおり、了承された。</p> <p>議題(2) 各施策についての点検・評価 平成30年度教育委員会の点検・評価報告書「Ⅲ 点検・評価の結果(平成29年度事業対象)」において、「生涯を通じた学びの充実とその成果の活用」のうち1事業について、「社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が活かされる教育の推進」のうち、「2 未来へ飛躍する人材の育成」の5事業について、「3 学校・家庭・地域の連携による教育の推進」の8事業について、各所管課から説明を行い、各委員へ意見を求めた。</p> <p>【説明】 [Ⅲ 点検・評価の結果(平成29年度事業対象)] <生涯を通じた学びの充実とその成果の活用> (1) 主な事業の取組と成果・課題 ④人権教育・啓発事業の推進 (2) 教育委員会の自己評価(教育政策室)</p>

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

<社会を生き抜く力をはぐくみ、多様な個性が活かされる教育の推進>

2 未来へ飛躍する人材の育成

(1) 主な事業の取組と成果・課題

- ⑯「グローバル・スタディ」の充実
- ⑰国際教育・交流事業の推進
- ⑱理数教育の推進
- ⑲市立高等学校「特色ある学校づくり」計画の推進
- ⑳主権者教育の推進

(2) 教育委員会の自己評価（教育政策室）

3 学校・家庭・地域の連携による教育の推進

(1) 主な事業の取組と成果・課題

- ㉑子どもの生活習慣向上のためのキャンペーンの推進
- ㉒各学校の特色を活かした給食や、きめ細かな食育の推進
- ㉓スクールサポートネットワーク（SSN）の推進
- ㉔さいたまチャレンジスクールの推進
- ㉕夢工房 未来（みら）くる先生 ふれ愛推進事業の充実
- ㉖「心を潤す4つの言葉」の推進
- ㉗中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」の推進
- ㉘学校相談支援チームの活用

(2) 教育委員会の自己評価（教育政策室）

【主な意見及び質疑】

④〇人権教育・啓発事業の推進

（青羽委員）

・昨年度の評価委員会での指摘事項について、小学校・中学校の実践事例を紹介いただき、よくわかった。人権教育については、DVDなど啓発の映像資料があり、具体的に分かりやすいと思うので、引き続きそれらも活用しながら指導に当たってほしい。

（朝日委員）

・人権教育については公民館でも行っているが、その際に学校で行う人権教育の内容についても紹介するなど、公民館と学校で連携を図り、保護者や地域にも学校で行う人権教育の内容を広く周知したほうがよい。

（青羽委員）

・PTAでも人権教育については取り組んでいるところだが、さらに連携を図っていく必要を感じている。

（朝日委員）

・「人権の花運動」について、更なる周知が必要だと感じる。運動の趣旨を理解してこの運動に取り組むことが大切である。

（人権教育推進室）

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

・「人権の花運動」は3年間で103校で実施。各区役所で1校ずつセレモニー校を決め、式典等を行っている。また、セレモニー校以外でも、講話などを実施し、運動の趣旨は伝えているところである。

(細淵委員長)

・人権教育において、当事者が実際に伝える場をどのくらい設定しているのか。性的少数者や障害者など、その問題で苦しんでいる方が実際に伝えることは、訴える力が大きいと考えられる。また、そこには第三者的なサポートの立場の方もいると、さらに訴える力も違ってくるのではないか。

(人権教育推進室)

・平成29年度では、外国の方や障害のある方に来ていただいて、テーマに沿った人権教育を推進しているところである。その他、落語なども取り入れて人権教育を行った実践例もある。

⑩「グローバル・スタディ」の充実

(青羽委員)

・現在行われている小・中学校のグローバル・スタディと、これから開校する大宮国際中等教育学校における取組とで、方向性の違いなどはあるのか。

(高校教育課)

・大宮国際中等教育学校については、現在カリキュラムを作成しているところである。小学校の学びを踏まえた中等教育学校となるので、入学者選抜についても、グローバル・スタディを踏まえて行う予定である。今後中等教育学校は、国際バカロレア認定校を目指していくことから、中学校の学習指導要領に準拠するが、どのように発展させていくかは、関係各所とも連携を図って進めていく。

(青羽委員)

・小・中の9年、小・中・高の12年、中・高の6年と学年の区切りがいろいろある中で、さいたま市の子どもたちはいろいろな環境で学ぶことができ、また保護者は市内で多様な選択肢の中から学校を選ぶことができる、というのはとても良い。今後も各学校で特色ある教育を推進して行ってほしい。

⑪国際教育・交流事業の推進

(青羽委員)

・リッチモンドへは、どのような教員を派遣しているのか。年代や経歴など。

(指導1課)

・中核的な立場の教員を派遣している。今年度については、リッチモンドから派遣された教員を受け入れる。

(青羽委員)

・現在は英語の指導力向上やグローバルな視野をもつための研修だと思うが、今後、2045年問題なども社会で取り上げられているところなので、2045年に現役で教員を

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

やっている世代の教員を派遣しグローバル化に対応していくなど、派遣教員の選考について、いろいろな視点で検討してもよいのではないか。

(朝日委員)

・グローバル・スタディの評価はどのようになっているのか。通知表へ記載されているのか。

(指導1課)

・評価は通知表へ記載している。また、それとは別に、今年度については民間の効果測定を活用し、結果を生徒一人ひとりへフィードバックするとともに、学校での授業改善に活用していく。

⑱理数教育の推進

(朝日委員)

・CST事業をはじめ、理数教育の更なる充実を期待している。子どもたちは実験教室など理科の活動をととても楽しそうに取り組んでいる。

(細淵委員長)

・CSTについて、候補者は年々増えていっているのか。各校に1名配置など、目標値はあるのか。

(指導1課)

・年々増えている。最終的には各校1名いるのが望ましいが、現状はまだそこに至っていない。

(朝日委員)

・小学校の理科備品もとても充実しているように感じる。

(細淵委員長)

・理科の実験には安全面の配慮も重要になってくるが、安全面の配慮はどのようになっているか。

(指導1課)

・小学校4年生以上では、観察実験アシスタントが付いている。

(朝日委員)

・観察実験アシスタントについては、大学生など若い方でも務まるように思う。ボランティア活動としてではなく、例えば大学の授業の一環としてこの事業に取り組めるシステムを構築することも視野に入れるなど検討する必要がある。

⑲市立高等学校「特色ある学校づくり」計画の推進

(朝日委員)

・高等学校における「特色ある学校づくり」が保護者にも浸透してきているように感じられ、とてもよい。

(青羽委員)

・市立高等学校の4校の交流はどのようなものがあるのか。

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(高校教育課)

・「難関大チャレンジセミナー」や「合同授業研究会」など、生徒も教員も交流するシステムが構築されている。

(細渕委員長)

・4校の市立高等学校が、それぞれ特色ある教育を推進することは大変素晴らしいことなので、引き続き推進して欲しい。

⑩主権者教育の推進

(青羽委員)

・特に小・中学校においては、児童生徒の保護者が投票に行かないといった話を聞くこともあるので、保護者への啓発のためにも、主権者教育について、学校とPTAとの連携を図っていく必要がある。

⑪子どもの生活習慣向上のためのキャンペーンの推進

(青羽委員)

・テレビゲームやスマートフォンの使用時間や朝食の習慣など、保護者も生活習慣向上の取組が浸透してきていると感じる。タブレットやスマートフォンについては、保護者意識も変化してきており、児童生徒に使わせないということではなく、適切に使えるようになることを期待している。使用方法についてもアプリ等で遊ぶだけでなく、勉強などで活用する場面も増えてきていることから、今後のさいたま市学習状況調査における質問の表現方法を検討していく必要があるのではないか。

⑫各学校の特色を活かした給食や、きめ細かな食育の推進

(青羽委員)

・学校給食は他市と比べて充実しているので、引き続きの充実を期待している。

⑬スクールサポートネットワーク（SSN）の推進

(青羽委員)

・スクールサポートネットワークについて、法の改正等、校長への周知を図っているところだと思うが、現状の認知度はどうか。

(生涯学習振興課)

・ガイドブックの作成に当たり、昨年度も校長会等をとおして、意見を聞いたり周知したりしたところだが、引き続き、周知を図っていく。

(青羽委員)

・今後働き方改革とのバランスを大切にして、この取組を推進して欲しい。特に学校と地域の関係を築く上で、働き方改革を担当する所管との連携が必要だと思われる。

(朝日委員)

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

・学校地域連携コーディネーターの役割も非常に重要で、立ち位置を明確にする必要がある。学校と地域が良好な関係を築いていくために、この事業の趣旨や内容を理解して、推進する必要がある。

⑭さいたまチャレンジスクールの推進

(朝日委員)

・チャレンジスクールを推進する立場として、ボランティアの不足が継続した課題となっている。またボランティアの高齢化も進んでいるので、この点について、引き続き検討が必要である。

(細渕委員長)

・辻小学校と上大久保中学校の文部科学大臣表彰について、どのような取組か。

(朝日委員)

・チャレンジスクールについては、どちらの学校も、放課後と土曜日のチャレンジスクールについての取組が評価されたもの。内容としては体験学習や復習、地域の方々との交流となっている。さいたま市内の学校は、毎年表彰されている。

(細渕委員長)

・推薦などがあるのか。

(生涯学習振興課)

・選定委員会で候補校を決め、推薦している。

(朝日委員)

・チャレンジスクールの活動内容は、毎月教育委員会へ各校から報告している。

⑮夢工房 未来(みら)くる先生 ふれ愛推進事業の充実

(青羽委員)

・講師選定でバランスが必要。児童生徒の実態を踏まえた選定が必要だと思われる。

(朝日委員)

・小学校は地域で働く人々を講師に招くことで、中学校での職場体験やキャリア教育の充実につながるのではないか。中学生職場体験との連携も必要だと思われる。

⑯「心を潤す4つの言葉」の推進

(青羽委員)

・あいさつ運動などは大切な取組なので、引き続き保護者の協力を得ながら取り組んでほしい。

(朝日委員)

・事業の周知を図るポスターについて、浸透してきている反面見慣れてきてしまっていて、書かれている内容を読むことが少なくなっているように感じる。例えば配色を変えるなど、見る人の目に留まり、読みたくなるような工夫をしてはどうか。

⑰中学生職場体験事業「未来(みら)くるワーク体験」の推進

平成30年度
第3回さいたま市教育行政点検評価委員会 会議録

(青羽委員)

- ・体験できる職種に地域差があるように感じられるので、地域との連携や工夫が必要。
また、児童生徒の実態を踏まえて事業を推進することが大切である。

㊸学校相談支援チームの活用

(青羽委員)

- ・最近、自殺を促すようなネガティブな音楽が流行っているといったニュースを目にした。このような現状も踏まえて、調査を行ったり、指導や支援の内容を検討したりする必要がある。

(細淵委員長)

- ・学校からの相談について、個別での対応か、チームでの対応か。

(教職員人事課)

- ・個別の対応である。校長からの相談に応じて、例えばこの案件には弁護士に、この案件には臨床心理士に、というように対応している。

(細淵委員長)

- ・チーム、というのはどのような意味か。

(教職員人事課)

- ・学校だけで解決が困難な事案について、専門家チームがサポートする、という意味。

(細淵委員長)

- ・校長から話があるのか。

(教職員人事課)

- ・校長からの要請である。

(細淵委員長)

- ・サポートに当たる専門家について、最近の傾向はどのようなものか。

(教職員人事課)

- ・弁護士が圧倒的に多く、他には警察OBや臨床心理士が対応する事案もある。

(細淵委員長)

- ・弁護士対応の案件についてはどういった内容があるか。

(教職員人事課)

- ・児童生徒、保護者とのトラブル、サービスや教員の指導内容に関するもの、地域住民からの苦情など多岐にわたっている。

<閉 会> 12時00分閉会

【問合せ先】 教育委員会事務局管理部教育政策室 829-1626